

新型コロナウイルス感染症の今について

厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の“いま”についての10の知識」より抜粋
(2020年12月時点)

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人や死亡する方は高く、若い人は低い傾向にあります。

Q 重症化する人の割合は約1.6%（50歳代）

※感染していても症状が現れず医療機関を受診しない人などがあるため、これは全人口の約0.2%に相当します。

A 海外と比べて、日本で新型コロナウイルス感染症と診断された人の数は多いのですか。
死者数は、全世界の平均や主要国と比べて低い水準で推移しています。

A これまでに約20万9980人が新型コロナウイルス感染症と診断されていますか。

Q 最新的情報はこちら→



A 日本の人口当たりの感染者数、下で0・06%、60歳代以上で5.7%となっています。

■30歳代と比較した場合の各年代の重症化率

重症化率	年代
0.5倍	10歳未満
0.2倍	10歳代
0.3倍	20歳代
1倍	30歳代
4倍	40歳代
10倍	50歳代
25倍	60歳代
47倍	70歳代
71倍	80歳代
78倍	90歳以上

*「重症化する人の割合」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例（無症状を含む）のうち、集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療を行った症例または死亡した症例の割合

緊急事態宣言 みんなで防ごう！ 新型コロナウイルス感染症

不要不急の外出自粛

不要不急の外出自粛を徹底してください。

こんな外出はOK

医療機関への通院、食料・医薬品・生活必需品の買出し、必要な職場への出勤、屋外での運動や散歩など、生活や健康の維持のために必要な場合



▲東京都の緊急事態措置ポスター

□外出時のマスク着用

マスクを着用するのは、自分が感染することを防ぐためであり、万が一感染した場合も、多くの人に感染させる危険を抑えるためでもあります。自分と相手の双方がマスクを着用することで、ウイルスの吸込みを7割以上抑えることができるという研究結果があります。自分の顔にぴったりフィットするマスクを選ぶことが重要です。

□三つの密「密閉」「密集」「密接」を徹底的に避ける

新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染し①密閉空間（換気の悪い密閉空間）②密集場所（多くの人が密集）③密接場面（互いに手を伸ばしたら手が届く距離での会話や発声が行われる）という3つの条件の環境で感染リスクが高まります。このような状況を徹底して避けましょう。



□こまめに手を洗う

手洗いのタイミングは「公共の場所から帰った時」「咳やくしゃみ、鼻をかんだ時」「ご飯を食べる前後」「病人のケアをした時」「外にあるものに触った時」などが目安。流水とハンドソープを使ってこまめに洗いましょう（外出先などではアルコール消毒で代用可）。

□体調不良の時は外出しない

ちょっとと風邪っぽい程度でも、無理をせず、に会社や学校を休むなど、外出を控えて自宅で体を休めましょう。

□健康な生活を送るために必要な外出は控えないで

不要不急の外出自粛は必要ですが、健康な生活に必要な外出、例えば医療機関の受診などは控えないでください。必要な治療を受けずにいると、体調が悪化する恐れがあります。また、あまり動かさず室内に留まることも良くありません。人の少ない時間帯などを見計らって、屋外に出て、散歩や運動をすることをお勧めします。

基本的なことが、感染予防に効果的！あらためて、確認してみましょう

毎日の新型コロナウイルス感染症対策

□こまめに手を洗う

手洗いのタイミングは「公共の場所から帰った時」「咳やくしゃみ、鼻をかんだ時」「ご飯を食べる前後」「病人のケアをした時」「外にあるものに触った時」などが目安。流水とハンドソープを使ってこまめに洗いましょう（外出先などではアルコール消毒で代用可）。

A 軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多い、必要な場合に解熱薬などの対症療法を行います。呼吸不全を伴う場合には、酸素投与やステロイド薬（炎症を抑える薬）・抗ウイルス薬※の投与を行い、改善しない場合には人工呼吸器などによる集中治療を行うことがあります。

こうした治療法の確立もあり、新型コロナウイルス感染症で入院した方が死亡する割合は低くなっています。

※ 新型コロナウイルス感染症の治療として承認を受けています。
抗ウイルス薬として、国内ではレムデシビルがあります。
(12月25日時点)

Q 新型コロナウイルス感染症はどうにして治療するのですか。

A 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、どのようなものがありますか。

なお、抗体検査は、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるものであるため、検査を受ける時点で感染しているかを調べる目的に使います。

抗原定量検査、抗原定性検査などがあり、いずれも被検者の体内にウイルスが存在し、ウイルスに感染しているかを調べるために使います。

Q 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、どのようなものがありますか。

A 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、P C R 検査、抗原定量検査、抗原定性検査などがあります。PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査などがあり、いずれも被検者の体内にウイルスが存在し、ウイルスに感染しているかを調べるために使います。

抗原定量検査、抗原定性検査などがあり、いずれも被検者の体内にウイルスが存在し、ウイルスに感染しているかを調べるために使います。

新型コロナウイルス感染症の今について

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、ほかの人に感染させているのは2割以下で、多くの人は感染させていないと考えられています。

Q 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どれくらいの人がほかの人に感染させていますか。

このため、感染防護なしに3密（密閉・密集・密接）の環境で多くの人と接するなどによって1人の感染者が何人もの人に感染させてしまうことがなければ、新型コロナウイルス感染症の流行を抑えることができます。

体調が悪いときは外出を控えることや、人と接するときはマスクを着用するなど、新型コロナウイルスに感染していた場合に多くの人に感染させることのないように行動することが大切です。

Q 新型コロナウイルスに感染した人が、ほかの人に感染させる可能性がある期間はどのくらいですか。

A 発症の2日前から発症後7～10日間程度とされています。この期間のうち、特に、発症の直前・直後でウイルス排出量が高くなると考えられています。

このため、新型コロナウイルス感染症と診断された人は、症状がなくとも外出を控えるなど、感染防止に努める必要があります。



Q 新型コロナウイルス感染症を拡げないためには、どのような場面に注意する必要がありますか。

A 新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染するため、3密（密閉・密集・密接）の環境で感染リスクが高まります。

このほか、飲酒を伴う懇親会など、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要です。（下のイラスト参照）

感染リスクが高まる「5つの場面」

▶ 内閣官房「感染リスクが高まる『5つの場面』特設サイト」より

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。
- また、見聞が鈍敏、大きな声になりやすい。
- 特に飲酒などで団結されている様な状況で、高時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、同じ飲みや歌などの共用が感染リスクを高める。

場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。

場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしで近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの会話の中では、目カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。

場面④ 狹い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり開けた空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 窓の位置やトイレなどの共用部分での感染が確認されている。

場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、次の座りや寝床の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、吸煙室、更衣室での感染が確認される事例が確認されている。

羽村市の状況についてのお知らせ

羽村市の感染状況は市公式サイトでお知らせしています。感染対策・支援策などについては、広報はむらにも掲載しています。

市公式サイトは、状況変化に応じ、随時情報を更新していますので、ご覧ください。

問合せ 健康課（保健センター内）⑩624



▲ LINE 相談



▲ 市公式サイト
新型コロナウイルス
感染症に関する情報